

1, 秋の一日研修旅行記

文化の香り~爽秋の丹波路を往く

副会長 宮崎 恒彰

去る令和 4 年 11 月 10 日に、文化協会としては 3 年ぶりの研修バス旅行が開催されました。秋晴れの好天の下、39 名の参加者が JR 尼崎と阪神尼崎からそれぞれバスに乗り込み、一路丹波篠山を目指しました。中国自動車道から舞鶴若狭自動車道へ入り、北上するに従って周囲の山々が色づき、まさに紅葉のシーズンでもありました。

丹波篠山へ到着して、まず最初に、当協会会員青山幸克氏(元篠山藩主で、さらに分家が元尼崎藩主でもあった青山家の後裔)の一方ならぬお世話で、県立篠山鳳鳴高校の青山文庫と、近くの市立青山歴史村を訪問しました。なお、参加者が多く、一度に青山文庫へ入れないので、2班に分かれて交代で見学しました。

鳳鳴高校では樋口校長先生と、青山文庫を研究しておられる同校OBの久下先生のお出迎えとご説明を受け、普段は一般に公開されていない収蔵庫の中を見せて頂きました。内部はところ狭しと保管棚が並び、青山家から同校が寄贈を受けた貴重な書籍類など 11,000 点を含み、合計約 25,000 点を収納するとかで、そのボリュームと中味に圧倒されました。

保管棚を順に見ていくと、中国の古い字典のほか、日本書紀(寛政 5 年 5 年版)、本居宣長による古事記の注釈書(古事記伝 44 巻)、水戸光圀編纂による大日本史、源氏物語、万葉集注釈書、小説、心学に関わる古文書等々、殆どが江戸時代以前の写本とのことではありましたが、とても 1 時間ほどの見学時間では内容を詳しく見る余裕は無く、貴重な書物のタイトルだけを見て時間切れになったのは残念でした。

次の青山歴史村は、藩籍奉還後に寄贈された旧青山家の別邸「桂園舎」や、旧藩士宅の長屋門を移築した建物などで構成されており、解説者の詳しい説明を聞きながら昔の朱印状や版木など展示物を見学した後、デカンショ館でデカンショ節のいわれを解説したビデオを見ました。

そのあと、昼食のため丹波陶芸村のレストランへ行き、旅行支援により補助を受けたので予算に余裕が出来たとかで、これまでの旅行よりワンランク・アップされた?三田肉などをご馳走になり、食後、出発時に旅行社から配られた 3,000 円のクーポン券を使って、丹波のお土産を買った参加者もおられたようです。ただ、時期的に、黒枝豆のシーズンが終わっていたのが残念でした。

午後は、本日2番目の訪問地である兵庫陶芸美術館へ行きました。ここは、当協会和田会長のご提案による訪問で、予め車中で会長からご説明を受けて、ルネ・ラリックのガラス工芸品を鑑賞しました。ルネ・ラリックは、19世紀から20世紀にかけてフランスで活躍したガラス工芸家で、アール・デコ(アール・ヌーヴォーの時代に続き、ヨーロッパやニューヨークで、1910年代半ばから1930年代にかけて流行した装飾美術)の、モダン・エレガンスの美と言われるガラスの透明性を活かした新鮮なデザインと、鋳型を駆使した独自の製法によって、彼の作品はアール・デコを象徴する存在となり、今回の展示物は北澤美術館の所蔵品だそうですが、精緻で美しいガラス工芸品の数々を堪能しました。

帰途は 3000 円のクーポン券を残していたり、土産物を買い足りない人たちのために、明太子屋へ寄って、予定より若干遅れたものの全員無事に出発地へ帰着し、すがすがしい秋の一日を、文化の香りに包まれて過ごした次第であります。



(兵庫陶芸美術館前での記念写真)

2、令和4年通常総会(書面決議)後の行事等

(1) 尼崎薪能

令和4年5月27日(金)17時30分から大物川緑地公園野外能舞台にて開催。参加者 和田会長、玉垣副会長、宮崎副会長、田中事務局長

(2)役員会開催 (以下敬称略)

6月9日(木)午前10時から尼崎小田南生涯学習プラザにて役員会を開催。議事

- ①写真展について ②ホームページへの掲載内容について ③秋のバス旅行 (美術館案等)を次回検討とした。 ④初詣については次回検討
- ⑤80周年記念事業計画については、今後議論する。

出席者 和田(Web)玉垣、宮崎、喜多、加島、小川、森、辻川、石橋、藤田、田中

(3)役員会開催

令和 4 年 8 月 18 日 (木) 10 時から場所小田南生涯学習プラザにて開催 議題 ①兵庫陶芸美術館ほか見学について ② 8 0 周年記念事業について ③ その他 写真展、観光局との連携、副読本の件、契沖の会の 2 0 周年記念講演

(4) 大近松祭

令和 4 年 11 月 23 日 (日) 11 時より 広済寺にて 参加者 玉垣、宮崎、喜多

- (5) ルネ・ラリック特別展・青山記念文庫見学会日帰りバス旅行 令和4年11月10日(木) 8時から17時 篠山方面 39名参加
- (6)役員会実施

令和4年11月22日(火)場所小田南生涯学習プラザにて開催 出席者 和田、玉垣、宮崎、重田、森、藤田、田中

議題 ①初詣は、1月6日貴布禰神社9時30分集合その後櫻井神社参拝 ②80周年記念誌 玉垣副会長より青山4代の碑について説明

- (7) 第64回全国社会教育研究大会・広島大会で江田政亮会員(貴布禰神社宮司) が、令和4年10月27日「令和4年度全国社会教育委員連合表彰」を受賞。 (県下で1名) 心よりお喜び申し上げます。
- (8) 兵庫県のシンポジウムに和田会長参加報告

先日11月25日に淡路洲本で行われた兵庫県文化団体連絡協議会の"地域文化を考えるシンポジウム"に参加しました。

昨年は中止され、各所属団体より1名参加という条件での開催となりました。 和太鼓の演奏や、国生み、おのころ伝説にまつわるお話に始まり、構成団体の活動報告、 主催団体である淡路文化団体連絡協議会による種々の催しで4時間があっという間に過ぎた1日でした。

その中で淡路文化協会の出された冊子に目を通していて、つい2週間ほど前に伺った 篠山 "鳳鳴高校"という文字を見つけ内容を追ったところ文化財収蔵庫にあった、ある 軍人さんの写真(樋口中将)にまつわる研究をされている方の記事でした。あまりにも タイミングよく目に飛び込んできた偶然に驚き何かの縁を感じ舞台そっちのけで読みま した。70年前の終戦の混乱期に条約を反故にして北方4島から本島に攻め入ろうとし たソ連軍に北海道本島を守り抜いた樋口中将の研究者だということがわかりました。 大戦前ポーランドの駐在武官であった氏がソ連についての考察を行っていた事で北海道 への侵攻を予知し北海道本島を守り抜いたという史実です。日本でも有名な杉原千畝さ んはこの方の部下であったそうです。

尼崎文化協会の活動とは関係のない事柄ではありますが、いま日本が直面している事 や今後に結び付く糸口になるのではないかと思い個人的に調べてみたいと考えていま す。

3, 今後の予定

(1) 初詣 令和5年1月6日(金)午前9時30分から11時解散 場所 貴布禰神社から櫻井神社

来年もコロナ禍で三社参りは断念し、尼崎総氏神 貴布禰神社及び尼崎藩主 松平家ゆかりの櫻井神社に参拝します。

(2) 契沖顕彰短歌大会について

令和5年2月11 (土) 13時より開催予定の第20回契沖顕彰短歌大会を 園田学園女子大学にて開催します。

(3) 今後の事業予定

①監査会 4月上旬

②役員会 4月下旬

③総会 5月初旬 尼崎商工会議所

協会だより編集 宮崎 恒彰 田中 正喜